



酒の出来を確かめる(左から)小林幹男さん、久洋さん、大祐さん(8日、黒部市の銀盤酒造で)

加賀の井酒造新酒搾り

銀盤で2回目 再建へ思い新たに

新潟県糸魚川市で昨年12月に起きた大火で酒蔵が焼失した酒造会社「加賀の井酒造」は8日、黒部市の銀盤酒造で設備を借りて新酒を搾る作業を行った。同酒造での酒造りは今年春に続き2回目。今回からは蔵元・小林大祐さん(35)の弟、久洋さん(32)が蔵人として加わり、再建に向けて思いを新たにしている。

新酒は12月上旬から出荷する予定。焼失した酒蔵は来年2月に元の場所へ再建され、3月から新しい蔵での酒造りを始めるといふ。熟成したもうろみから搾った酒の味を確かめた久洋さんは「今回の経験を新しい蔵での酒造りにも生かしていきたい」と話した。幹男さんは「酒造りは同じことをしても、いつも同じ酒ができるわけではない。少しの変化にも対応する力を蓄積していきたい」と話していた。

日医工 増収増益

9月中間決算

後発医薬品製造大手の日医工(富山市)が8日発表された9月中間連結決算は、昨年買収した米ジェネリックメーカーが売り上げ増加に大きく貢献し、増収増益となった。売上高は前年同期比25・5%増の942億9700万円、19期連続の増収。経常利益は同54・0%増の51億300万円、最

終利益は同12・4%増の24億4900万円となった。田村友一社長は記者会見で「国内市場の伸びの鈍化などで状況は引き続き厳しい。市場占有率をさらに高め、数を売ることが大切だ」と述べ、来年1月に新生産棟を稼働させ、増益を図る考えを示した。

2018年3月期の業績予想は、売上高2000億円、経常利益は86億円を見込んでいます。



元気よく歌うたち(8日、市の梨雲苑で)

注ぎ口の長形の水差しで胴部は上下に球形で、下を作っている形を立て、太い水を入る胴部の横に付いた細長い注ぎの頭には鳳凰形の鶏冠(とさか)は注ぎ口に面差しが流行し、その一つと老形状が独特の様も珍しい。5段の花弁が花弁は中ほどす程度で実

前田薬品工業と共同開発

南砺の絹など使用

県立滑川高校の生徒が、医薬品製造・販売会社「前田薬品工業」(富山市)とコラボし、県産素材を使った化粧品を開発した。「美絹(うつくしるく)」のブランド名で今年5月から化粧水とリップクリームを販売したのに加え、今月11日には乳液も発売される予定だ。同校薬学部村井真梨部部長(17)は「富山の人はもちろん、県外の人を含め多くの人に使ってほしい」と話している。

塗り薬などを手がける同社で化粧品の販売は初めて。生徒に職業観を養って

ちびっこ元気に「火の用心」

福祉施設で呼びかけ

秋の火災予防運動(9前に、「ちびっこ火の用心」の園児34人が8日福祉施設やスーパー、企業火災の予防を呼びかけた。幼い頃から火災予防へってもらおうと、同市消防署が主催した。同市吉設「梨雲苑」では、園児災害報器の点検をしまし、気よくあいさつをした後、施設の利用者約60人が送られた。

坪内奈津子統括施設長用者のお年寄りたちにもなどの火の不始末に注意

天平 第69 異